



## 主任コラム3月号

主任 澤井 良子

先月は生活発表会を終えることができました。感染症が流行する中での開催となりましたが、子ども達一人ひとりの体調と向き合いながら、その時にできる最善の形で当日を迎えられたことを、嬉しく思います。

本番までの過程では、単に「揃える」「完成させる」ことだけを目標にするのではなく、子どもたちがどのように関わりあい、どのように自信をつけていくのかを大切にしてきました。

0・1歳児は、ありのままの様子や姿を見て頂くことを大切に、1年間積み重ねてきた手遊び歌や、日々の集りの様子を映像にまとめました。「日常の中で育っている力」を感じていただいたのではないかと思います。

2歳児では、普段から楽しんでいる遊びを劇遊びへと発展させました。初めて1人で舞台に立つことに戸惑う姿もありましたが、担任や他のクラスの保育者との関係が支えとなり、最後までやり遂げる姿へとつながりました。

3歳児は、自分たちで選び、決める経験を重ねながら発表に取り組みました。「やらされる」ではなく「やりたい」へと変わる瞬間に大きな成長を感じました。

4歳児は、仲間と協力しながら一つの作品を作りあげました。保育士がさりげなくフォローすることで、大きな声で堂々と表現する姿がみられ、友達を意識する姿勢が育ってきたことに、日々の積み重ねを感じました。

5歳児は、自らテーマを調べ、考え、表現へとつなげました。自主的に振りを友達と見せ合う姿や衣装を自分たちで作る姿もあり主体性のある取り組みでした。堂々と表現する姿に、4歳児の子ども達から憧れの眼差しを向けられる場面もありました。

今回の発表会を通して改めて感じたのは、子ども達は指示の中で動くのではなく、安心できる関係の中でこそ力を発揮するという事です。そして、当日は、子どもたちだけでなく、裏方で支える職員同士の連携やチームワークも合わさり、無事に終えることができたのだと感謝しています。

保護者の皆様には、お忙しい中ご参加いただき、そして温かい拍手や感想をありがとうございました。

2月末には「三重県桜の木プロジェクト」の一環として、園庭や駐車場に桜の苗木を30本、年長児と共に植えました。桜の木が大きく育ち、花を咲かせる頃、子ども達はそれぞれの場所で新しい一歩を踏み出していることと思います。目には見えにくい「育ち」もこうして少しずつ根を張り、やがて花を咲かせていくのだと思います。この桜が、園の子ども達の成長を見守る存在になることを願っています。

そして3月は、卒園・進級を迎えます。子ども達の新しい一歩を大切にしながら、職員一同、丁寧に関わっていきたいと思います。最後までどうぞよろしくお願いいたします。

